

アグリ | ワーク | ポイント

今年も苗の種子準備の時期がやってきました。いもち病やばか苗病などの種子伝染病害は、未然に防ぐことが大事です。毎年の慣れている作業だからこそ、手順をもう一度確認し、良い苗を作りましょう。

正しい種籾消毒と催芽



農業経営支援課 石田 哲也

事前準備

水稲の育苗は高温・多湿状態で病原菌が繁殖しやすい環境なので、**使用する資材は必ず消毒しましょう。**ケミクロンGの1000倍液（水10ℓに薬剤10g）に10分間浸けるか、500倍液にさっと浸けるか、またはジョウロで散布した後、日光に十分に当て乾燥させます。

塩水選

種子を食塩水または硫酸水につけると、稔実が悪い籾は浮き、充実した籾は沈みます。素早くかき混ぜた後、浮いた籾やゴミを取り除きます。 **購入した種籾も実施しましょう。**

塩水選の濃度
(水10ℓあたり)

種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55kg	0.90kg
硫酸	1.98kg	1.10kg

水洗い

塩水選で沈んだ籾は必ず流水でよく洗ってください。水洗い後は、手に付着しない程度に水を切ります。

袋詰め

薬剤浸透効果を高めるため、目の粗い袋に7分目程入れてください。

種籾消毒

テクリードCフロアブル（200倍）に**スミチオン乳剤**（1000倍）を加え、種子消毒を行います。薬液中で袋をよくゆすり24時間浸けて、5〜24時間風乾させます。

種籾の量	水の量	スミチオン	テクリードC
4 kg	8 ℓ	8 ml	40 ml
10 kg	20 ℓ	20 ml	100 ml
20 kg	40 ℓ	40 ml	200 ml
40 kg	80 ℓ	80 ml	400 ml

浸種

浸種期間は、積算温度で1000〜1200℃が目安です。

- ① 停滞水で72時間浸種
- ② 酸素不足にならないように水交換
- ③ 24時間浸種

催芽

催芽の温度は28〜30℃を守り、高温にならないように気を付けましょう。

播種

播種量は、催芽籾で1箱あたりコシヒカリ150g、その他の品種で180gとします。

厚まきだと弱い苗になったり、病気が出やすくなるので注意しましょう。

※覆土前に十分にかん水し、覆土後のかん水は行いません。

温度管理

播種後の温度管理は十分に注意が必要です。

シルバーポルトウや寒冷紗等の被覆内の温度も上げ過ぎず（25℃以下）、また下げ過ぎないこと（5℃以上）。